

特集 ■ 総合病院におけるリハビリテーション—急性期を中心に

総合病院における急性期のリハビリテーションの現状と今後の展望、そして実現のためのチームの運営、診療スキル、リハビリテーションを取り巻くシステムや環境についてご解説いただきました。

■急性期リハビリテーションの重要性 (藤谷順子氏, 923 頁)

急性期リハビリテーションの効果と重要性は、さまざまな疾患や重症病態において示されつつあり、市民権を獲得しつつある。ICU、周術期、心筋梗塞と心不全、PAD、がんなどについて、最新のガイドラインでのリハビリテーションの位置づけについて解説している。しかしながら、本邦における急性期リハビリテーションは、普及の面ではまだ途上であり、今後が期待される。

■急性期重症患者に対するリハビリテーションと連携 (佐々木信幸氏, 929 頁)

「全身状態が改善してからリハビリテーション」を打破するためには、重症患者におけるリハビリテーションの意義と安全性の知識を有することと、システム作りが重要である。筆者の施設での救命救急センターに専門理学療法士を配するシステムは、メリットは大きい。患者転棟時の院内連携への配慮が必要であり、また、現時点では診療報酬上の不利、臨床的に有用感があってもアウトカムを示すのが困難、などの問題点がある。

■ストロークケアユニット (山田深氏, 937 頁)

脳卒中急性期治療を担う総合病院における集中治療室 (ICU) としての脳卒中ケアユニット (SCU) では、①対象とする症例の選別、②リスクマネジメント、③症状の変動への対応、④短期間での方針決定と連携が必要である。SCU でのチームアプローチのためには、スタッフ教育、標準化された評価と系統的観察、看護師のリハビリテーションへの参加が必要である。

■大きく変化する医療環境に適合した人材育成 (半田一登氏, 943 頁)

日本の医療供給体制は、入院医療の機能分化、地域包括ケア体制の整備の方向に大きく変化している。理学療法士においても、疾患別理学療法だけでなく、2013 年には予防理学療法が前進し、2014 年度診療報酬改定では急性期の ADL 維持向上加算の名で、病棟における活動が認められた。理学療法士協会では、生涯学習システムの整備、専門理学療法士の研修と認定に取り組んでいるが、卒前教育も引き続き重要である。

■院内システムの構築 (黒木洋美氏, 949 頁)

1,116 床、3 次救命センターを有する地域基幹病院での、急性期リハビリテーション体制の構築を紹介している。他科への周知と啓蒙活動、積極的な嚆下リハビリテーションに始まり、電子カルテを利用した普及、増加するスタッフの教育体制作り、365 日体制の導入とグループ再編成、中堅女性スタッフの再復帰奨励策とリクルート強化など、リハビリテーション部門の運営に参考になる貴重な情報である。

■診療報酬改定にみる今後のリハビリテーション (秋月玲子氏, 959 頁)

高齢化や人口減、医療現場の疲弊から、医療資源の効果的効率的活用が望まれている。2014 年診療報酬改定では、急性期医療においても、早期に ADL を維持改善し、早期退院、在宅との連携を図る改定が行われた。リハビリテーションは、単なる機能回復だけでなく、あらゆる段階で、ADL の維持改善の予防的介入、社会復帰のための介入など、活動範囲が広がることが予想される。

ニュース

認知症不明者対策サイト—自治体の公開情報紹介 (厚生労働省) …927 優先調達, 12 億円超に一省庁など障害者施設に発注 …935 職場の虐待, 障害者 393 人が被害—半数以上が「知的」(2013 年度) …942 原発避難を冊子に一福島から群馬に移った友愛会 …957 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」8 月号特集目次 …974 障害児, テレビ電話で療育—意思表示能力向上に効果 …981 社会保障費を抑制—病床数の適正化などで (経済財政白書) …1009

お知らせ

CI 療法講習会 …957 第 4 回実践呼吸療法セミナー—呼吸管理のチームアプローチ …987 脳卒中機能評価セミナー・予後予測セミナー—一歩進んだリハビリテーションを実施するために …999 第 15 回滋慶リハビリテーション学術研修会 …999 第 11 回東京都作業療法学会 …1000 第 37 回総合リハビリテーション研究大会 …1000